田久保賢植選手 インタビュー

～チェコエクストラリーグへの挑戦 / 折れない魂の先にあるもの ～

Q.今までアメリカ、カナダ、日本の四国アイランドリーグ、関西独立リーグなど様々な場所でプレー機会を求めて来た田久保選手ですが、どうして今回はチェコという日本ではあまり知られていない野球国への挑戦を決めたのでしょうか？

A. 誰もやった事がない、誰も挑んだ事がない事に挑戦してみたかったのです。これまで僕がプレーしてきた場所は誰かが行ったことのある、プレーしたことのある場所です。ただ、今回プレーしてきたチェコは日本人では誰も契約をしてプレーしたことのない場所だったので、それが大きな決め手になりました。

Q. チェコのエクストラリーグでプレーした初の日本人選手（投手、野手含む）になったと思いますが、それに関して感じることはありますか?

A.特に思うところはありません。人の縁でこういう形で野球を続けさせてもらえたので、チャンスを与えてくれた球団や契約に至るまでに様々なサポートをして下さった方々に本当に感謝しています。

Q. チェコへのプレー機会はどのようにつかんだのでしょうか？

A.ヨーロッパ野球への挑戦を考えていた時に、マネジメント会社を通じてコンタクトをお願いした事がきっかけです。

Q. 現地に行ってプレーするまではなかなかチェコの野球に対するイメージが持てなかったと思うのですが、実際にプレーしてみてそのイメージはどう変わりましたか？

A.ヨーロッパで野球が発達しているイメージが持てなかったので、少し甘い考えもあったのかもしれません。ただ、チェコはアイスホッケーやサッカーの強い国なのでフィジカルも戦術を考える能力も高い。MLB がテレビでも放送されているのでその影響をもろに受けている印象です。とにかく身体能力の強さは、やはりアジア人ではなかなか太刀打ちできるものではないと再確認させてくれました。しかし、それと同時に日本人には身体能力の強さに太刀打ちできる敏捷性やテクニカルな部分があることも確認できました。

Q. 簡単にチェコエクストラリーグのシステムのようなものを教えてもらえますか?シーズンで何試合するのか？何チーム構成のリーグなのか？外国人枠、プロ契約枠などについてです。

A.チェコは国内で１部～３部で構成されています。１部はトップリーグで外国人選手には MLB 経験者がいたり、他国の代表選手などが補強としてプレーしています。僕もその一人です。２部は１部入りを目指す下部組織。３部は野球を楽しむ事がメインでプレーしているチームが多数あります。外国人枠などはあったのかな・・・。ちなみにうちはアメリカ１人、オーストラリア１人、日本１人、キューバ１人、スロバキア３人が外国人選手でした。

Q. チェコリーグの競技レベルはどんな感じですか?またどんなバックグランドの選手たちがいるのか教えて下さい。

A.ちょっと例えようがないですね。前項でも話しましたが、MLB 経験者がいたり他国の代表選手がいたり、国内でもマイナー経験がある選手がいたりします。いい選手はびっくりするくらい素晴らしいし、良くないというか成熟していない選手も多々見かけられますが、まだまだ発展している途中なのでこれからですね。

Q. シーズン中の住居環境はどうなっていますか？試合日以外の普段の生活のリズムはどうなっていますか?

A.住まいは、チームが用意してくれたアパートでした。試合がない日は、朝を迎えて日本との時差があるのでメールチェックやメッセージの確認。それから昼にはレストランでランチを食べてから、その足で夕飯の買い物。カフェが多くある街なのでいろんなお店に入ってエスプレッソを楽しみながら雰囲気を満喫して、夕方にはグラウンドでチーム練習に合流して 3 時間ほど練習をして・・・というのが 1 日の流れです。

Q. 今回プレーしたフロッシ・ブルノという場所の物価は日本と比べるとどうですか?また街並みや治安はどんな感じだったのでしょうか?

A.チェコの物価で驚いたのは、ビールです。ミネラルウォーターより安いビールがゴロゴロあるので日本ではあまり口にしないのですが、少し飲みすぎたかもしれません(笑)いつもランチで行くレストランのランチセットも日本円で約 280 円とかなり得した気分になりました。街並みは世界でも有数の美しい街と称されるチェコの街並みは、その名のとおり古い建物や歴史的建造物が多く残っていて歴史を感じさせる素敵な街でした。治安に関しても、恐怖を感じるようなこともなく、好奇心先行だったので不便に思ったことはありませんでした。

Q. 監督は誰でしたか？またどんな野球をするタイプでしたか? コミュニケーションは何語でどのようにしていたのでしょうか?

A.オーストラリア人のベンという監督は、常に攻撃的に前を向いて次の塁を狙う姿勢を崩すなという監督でした。オーストラリアは英語ですので、英語でのコミュニケーションが出来る事でもホッとしたのを覚えています。そのくらいチェコ語は難しいのです。

Q. 今シーズンチェコのリーグで一番衝撃を受けたことはなんですか?また、印象に残る選手やチームはあったでしょうか？

A.チェコにはリーグ戦とは別にチェコカップというトーナメント戦があります。今でも強く印象に残っているのは、３部リーグに所属しているチームとゲームをした時に明らかに野球を娯楽の一環として活動しているであろうチームに唯一１５０キロ近くを投げる投手がいて、驚いた事があります。国の代表選手でもなければ、野球で生活をしている選手でもありません。ただ、日本ではあり得ない現象だったので本当にびっくりしました。

Q. 今シーズン一番嬉しかったこと、一番大変だったことを教えて下さい。

A.まず、大変だったのは言葉です。チェコにはチェコ語があり英語は若い人には通じますが確実ではありません。僕自身、５カ国目のプレーですがこんなに言葉で苦戦したのは初めてでした。しかし、そんな中でも仲間がいて友達がいて、おいしいチェコ料理があって豊富な種類のビールもある(笑)言葉なんていらないな～って改めて思えた事が一番の収穫でした。

Q. 実際にプレーしてみて感じるヨーロッパ野球に関する印象を教えて下さい。

A.よくどのくらいのレベル？？と聞かれる事がありますが、例える事はできないですね。ヨーロッパでは野球が日本やアメリカのように盛んな地域ではないので、ものすごくいい選手がいれば、あらら？という人もいます。それも野球というスポーツを根付かせようとしている途中であれば仕方のない事です。肌で感じたことは、ヨーロッパの選手はやはりフィジカルが強い。技術と歴史を積み重ねていくと素晴らしい野球をする可能性を秘めていると思います。

Q. チェコでのシーズンを終えて帰国した後に関西独立リーグのチームの一つである大和侍レッズにすぐに移籍、入団となりましたが、何か理由はあるのでしょうか?

A.僕の友達の外国人の選手もそうですが、世界の野球人は移動を繰り返します。常にアンテナを広げて野球ができる環境があるならば国を超える事も厭わない。そんな感覚が日本球界でも当たり前になる日が来ると思っています。野球選手は試合の中で失敗をして、練習で修正を加え、また試合で挑戦する。これがうまくなる為に必要だからこそ試合ができる環境が日本にあったから、そこにトライしたという事であって、僕の中ではごく普通のことだと思います。

Q.　最後になりますが、今シーズン一番の成長と収穫について教えて下さい。また、KOREKARA ヨーロッパやチェコの野球に挑戦をしていく選手たちに一言下さい。

A.物事の視野、価値観がより広くなりました。それは相手を尊重する事であり、自我を捨てる事でした。世界を見る、知ることは人生をより豊かにしてくれます。それを野球というスポーツを通じてさせてもらっている事は本当に感謝しています。野球にも人の縁にも。あなたの野球で得た経験を必要としている、お役に立てる国・地域は世界中に必ずあります。そんな野球人生もあっていいのではないかと僕は思います。
新しい事に恐れずに挑戦してください！！僕もトライし続けます。ありがとうございました！！